



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT1302S		
科目名	リスクマネジメント		
担当教員	山下 博之		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 1		
講義室	1501	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>■ CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連</p> <p>E1 学識と専門技能(60%)</p> <p>I1 理解・分析と読解 (30%)</p> <p>I2 量的分析 (5%)</p> <p>I3 情報分析 (5%)</p>		
教員の実務経験	<p>山下博之は、2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究者として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます (第2回～第14回)。</p>		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応</p> <p>2 進期期 ～ 3 発展期</p>		
科目概要・キーワード	<p>現代社会は国際紛争、自然災害、テロ、大規模な事故、感染症の発症など様々なリスクを抱えています。こうしたリスクに対し科学技術の進歩が一定の解決策を示したり、解決の糸口を作ることもありますが、科学技術の進歩がかえってリスクの複雑化や大規模化を招くこともあります。そうした多様かつ複雑なリスクに対して、ゼロリスクを求めるのではなく、いかに科学的根拠に基づいて、合理的かつ現実的に対応すべきか、法学を中心とした社会科学、理学、工学など多面的なアプローチから、リスクの特定、分析、評価、対策まで一貫した知識を学ぶとともに、基礎的なリスクマネジメント能力を身に付けることを目標とします。</p> <p>※授業形態は講義形式により行います。</p> <p>なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード</p> <p>リスク、リスクマネジメント、リスク認知、リスク評価、リスクの受容、リスクコミュニケーション、リスクトレードオフ</p>		
授業の趣旨	<p>■副題</p> <p>自分の身近な問題を「リスクマネジメント」の観点からとらえ、考え、取り組んでみる</p> <p>■授業の目的</p> <p>①現代社会の抱える多様かつ複雑な問題を認識、理解し、対応方法を考察するためのリスク、リスクマネジメントのモデルや理論に関する基礎的な知識を習得すること。</p>		

	<p>②現代社会の抱える多様なリスク及びそのリスクマネジメントの現状と課題に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>③上記の基礎的な知識を活用しながら、自分の身の回りの身近なリスクに自ら率先して気づき、これを自らリスク評価し、自らマネジメントすることで、自分の身や家族を守ると同時に、自分が所属する地域社会や組織の一員としてリスクに取り組んでいくことができるようになること。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>リスクマネジメントというと、警察や消防、自衛隊、または行政機関や企業の危機管理担当者等、一部の専門家だけが関係する取り組みという印象を受けるかもしれませんが、しかし、遠くない将来、皆さんは家族または企業の一員として、身の回りの様々なリスクから自分の家族を守り、または所属する組織を守る立場に立つこととなります。望むと望ままいとに関わらず、私たちは誰もがリスクマネジメントの担い手となるのです。リスクマネジメント論では、このように皆さんが何らかのリスクに直面し、リスクに取り組む際、そうしたリスクのとらえ方や考え方、リスクに取り組む方法に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。</p>						
<p>総合到達目標</p>	<p>自分の身の回りの身近な問題に自ら率先して気づき、理解できるように、リスク及びリスクマネジメントに関わる基礎的な知識を習得する。自分の身の回りの問題に対して自ら率先して備えるために、問題の構造を理解し、分析する力を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リスク」の概念をリスクと社会との関わりから説明できる。(第2・第3回) ・リスクへの取り組みにおける「認知」の問題と「リスク評価」の重要性について説明できる。(第4・第5回) ・リスクの「回避」、「予防」、「軽減」、「移転」の手法に基づき、様々なリスクへの取り組み方を自分なりに提案できる。(第6回) ・リスクに対する多様な考え方の存在を認識し、「リスクコミュニケーション」の重要性について説明できる。(第7回) ・自然災害、犯罪・国際テロ、感染症等の様々なリスクへの取り組みについて、「リスクマネジメント」の観点から考え、課題を列挙することができる。(第8回～第14回) 						
<p>成績評価方法</p>	<p>■小テスト3回(30%)：適用ルーブリックE1 (評価の観点) 該当回の授業で扱った点に関する理解度を評価します。 (フィードバック方法) 翌週の授業で解説を行います。</p> <p>■リアクションペーパー4回(20%)：適用ルーブリックE1・I1 (評価の観点) 該当回の授業で扱った点について十分理解した上で、それらを論理的、客観的に考察し、自分なりの考えを表現することができかどうかを評価します。 (フィードバック方法) 翌週の授業で解説を行います。</p> <p>■期末レポート1回(50%)：適用ルーブリックE1、I1、I2、I3 (評価の観点) 該当回の授業で扱った点について十分理解した上で、それらを論理的、客観的に考察し、自分なりの考えを表現することができかどうかを評価します。 (フィードバック方法) 翌週の授業で解説を行います。</p>						
<p>履修条件</p>	<p>必須のため特になし。</p>						
<p>履修上の注意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行を妨害し、または他の受講生の迷惑になるような行為が確認された場合には退席していただくことがあるので、この点を十分に理解した上で授業に臨むこと。 ・各授業について、履修者の興味や理解度等に応じて適宜変更することもあるので、留意してください。 						
<p>授業内容</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="464 1529 517 1576">回</th> <th data-bbox="517 1529 1489 1576">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="464 1576 517 1977">1</td> <td data-bbox="517 1576 1489 1977"> <p>①授業テーマ ガイダンス：「リスクマネジメント論」では何をどう学ぶか？</p> <p>②授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します。 ・本授業により、受講者が本講座の全体像を把握し、その上で各回の授業の準備を自主的、計画的に行えるようになる。</p> <p>③予習(60分) シラバスを通読し、前15回分の授業テーマ、授業概要を読んでおく。</p> <p>④復習(180分) ・授業内容のうち目標やスケジュール等につついて再確認する。 ・授業を踏まえ、自分なりの学修計画を立てる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="464 1977 517 2159">2</td> <td data-bbox="517 1977 1489 2159"> <p>①授業テーマ リスクとは何か？</p> <p>②授業概要 ・本授業では「リスク」や「リスクマネジメントの定義について、具体的な事象を挙げながら確認していきます。(E1、I1)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ ガイダンス：「リスクマネジメント論」では何をどう学ぶか？</p> <p>②授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します。 ・本授業により、受講者が本講座の全体像を把握し、その上で各回の授業の準備を自主的、計画的に行えるようになる。</p> <p>③予習(60分) シラバスを通読し、前15回分の授業テーマ、授業概要を読んでおく。</p> <p>④復習(180分) ・授業内容のうち目標やスケジュール等につついて再確認する。 ・授業を踏まえ、自分なりの学修計画を立てる。</p>	2	<p>①授業テーマ リスクとは何か？</p> <p>②授業概要 ・本授業では「リスク」や「リスクマネジメントの定義について、具体的な事象を挙げながら確認していきます。(E1、I1)</p>
回	内容						
1	<p>①授業テーマ ガイダンス：「リスクマネジメント論」では何をどう学ぶか？</p> <p>②授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します。 ・本授業により、受講者が本講座の全体像を把握し、その上で各回の授業の準備を自主的、計画的に行えるようになる。</p> <p>③予習(60分) シラバスを通読し、前15回分の授業テーマ、授業概要を読んでおく。</p> <p>④復習(180分) ・授業内容のうち目標やスケジュール等につついて再確認する。 ・授業を踏まえ、自分なりの学修計画を立てる。</p>						
2	<p>①授業テーマ リスクとは何か？</p> <p>②授業概要 ・本授業では「リスク」や「リスクマネジメントの定義について、具体的な事象を挙げながら確認していきます。(E1、I1)</p>						

	<ul style="list-style-type: none"> ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者が「リスク」の概念を理解し、その上で生活の中で私たちを取り巻いている事象の中でも「リスク」となりうるものを、見つけられるようになる。 <p>③予習（60分） 将来、私たちの身体や生命、財産に損害を与える可能性のある事象や現象を「リスク」と定義した場合、自分の身の回りにどのような「リスク」があるかをノートにリストアップしておく。</p> <p>④復習（180分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・授業で挙げられた「リスク」の例に、自分があらかじめリストアップしておいた「リスク」と異なるものがなかったか、確認する。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
3	<p>①授業テーマ リスクと社会</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちがどのような「事象」をどのような「リスク」として捉えるのかは、その人の社会的属性（住んでいる国や地域、職業、所属する組織、年齢、性別など）によって異なります。本授業では、社会的属性に応じて個人の考える「リスク」はどう異なっているのか、また、我々のリスクの捉え方は時代に応じてどのように変化してきたのかを検討していきます。（E1、I1） ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者が「リスク」を個人の立場や社会的属性、時代に応じて異なってくる相対的な概念として考えることができるようになる。 <p>③予習（60分） 自分が住んでいる地域にはどのようなリスクがあるのかをノートにリストアップしておく。</p> <p>④復習（180分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・授業を踏まえ、自分の住んでいる地域のリスクリストに付け足すべきリスクがないかどうか確認し、あれば付け足しておく。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
4	<p>①授業テーマ リスクマネジメントプロセス（1）認知</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが「リスク」に気づくことをリスク認知とよびます。本授業では、人々はどうのように「リスク」を認知するのか、リスク認知の過程でどのような問題が生じるのかを検討します。（E1、I1、I3） ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業によりリスク認知のメカニズムやバイアス、可視性の問題等を理解した上で、人々の「認知」の観点からリスクマネジメントの取り組みや問題を考えることができるようになる。 <p>③予習（60分） 事例としてテグ地下鉄火災や水俣病、9.11米国同時テロに触れるので、高校の社会科学教科書やネットを使って調べておく。</p> <p>④復習（180分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・授業で挙げた事例の他に、リスク認知バイアスの例がないか調べ、ノートに整理する。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
5	<p>①授業テーマ リスクマネジメントプロセス（2）評価と受容</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では私たちが、「リスク」についてどのような方法で評価しているのか、どのような場合にリスクを「受容」することになるのかを検討します。（E1、I1、I2） ・小テストのフィードバックを行います。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、リスクマネジメントにおけるリスク評価の役割や課題を理解し、その上で受講者が基礎的なリスク評価手法を身近なリスクを評価することができるようになる。 <p>③予習（60分） 事例として首都直下地震と南海トラフ巨大地震について触れるので、概要をあらかじめ調べておく。</p> <p>④復習（180分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で挙げられた例の他に、私たちが受容しているリスクがないかどうかを調べ、ノートにリストアップしておく。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
6	<p>①授業テーマ リスクマネジメントプロセス（3）管理の技法</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、一般的にリスクをマネジメントするために実施される4つの方法とその課題について検討します。（E1、I1） ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、リスクの管理方法やそこで生じる課題を理解し、その上で受講者が身の回りのリスクに対する自らのリスクマネジメントの取り組みを客観的に考え、見直しをできるようになる。 <p>③予習（60分）</p> <p>事例として地震と火事、空き巣の例を挙げるので、自分がこれらの被害をどのように防いでいるのか、自分や家族が行っている取り組みをノートにリストアップする。</p> <p>④復習（180分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・授業を踏まえ、自分や家族が行っている取り組みをどのように改善すべきか検討し、実践する。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
7	<p>①授業テーマ リスクマネジメントプロセス（4）リスクコミュニケーション</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクをめぐる関係者間の意識の違いや利害対立を調整し、解消するための取り組みは、リスクコミュニケーションとよばれています。 ・本授業ではこうしたリスクコミュニケーションがどのように行われ、どのような課題があるのかという点について検討します。（E1、I1） ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、リスクマネジメントの過程におけるリスクコミュニケーションの役割と重要性、課題を理解し、受講者が自らのリスクマネジメント取り組みのために自覚的、主体的にリスクコミュニケーションを行えるようになる。 <p>③予習（60分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例として東日本大震災の例に触れるので、予め概要を調べておく。 ・自分の身の回りにあるリスクの中でも、最も避けたいと思うものを3つノートにリストアップする。 <p>④復習（180分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・授業で配布した資料をもとに友人と防災クロス・ロードを行う。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
8	<p>①授業テーマ 自然災害におけるリスクマネジメント</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏で暮らすわれわれはもちろん、国全体に対し甚大な被害を及ぼしうる災害として、首都直下地震の発生が懸念されています。 ・こうした首都直下地震に対し、これまで政府や自治体が行っているリスクマネジメントとその課題について確認し、首都直下地震に対する私たち自身のリスクマネジメントについて検討します。（E1） ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者が地震災害に対する国や自治体の取り組みとその課題をリスクマネジメントの観点から理解し、これらをもとに地震に対する自らのリスクマネジメントを考え、実践することができるようになる。 <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都直下地震に関して内閣府が作成した被害想定を読んでおく。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・首都直下地震に対し、自分や家族がどのようなリスクマネジメントを行えばよいか考え、計画を立てる。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
9	<p>①授業テーマ 火災のリスクマネジメント</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災は毎年4万件近く発生しており、文字どおり私たちにとって最も身近なリスクの一つです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした火災に対する国や消防機関のリスクマネジメントとその課題について確認し、私たち自身が火災に対して普段から取り組んでおくべきこと、火災が発生してしまった場合取るべき行動について検討します。(E1) ・小テストのフィードバックを行います。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者が火災の発生状況や国や消防機関の取り組み、課題について理解し、これらをもとに火災に対する自らのリスクマネジメントを考え、実践することができるようになる。 <p>③予習 (120分) 近年の火災の発生状況(発生件数、年齢別死者数、火災の発生源等)と消防の動向について『平成30年版 消防白書』を使って調べておく。</p> <p>④復習 (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する ・火災に対するわが家のリスク及びリスクマネジメントを評価してみる。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
10	<p>①授業テーマ 事故のリスクマネジメント</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道や自動車は、現代を生きる私たちにとって必要不可欠な交通手段です。しかし、このような交通手段の利用には交通事故というリスクが伴います。 ・こうした交通機関のリスクに対する国や自治体、警察のリスクマネジメントと課題について確認し、私たち自身が交通事故に対して普段から取り組んでおくべきことについて検討します。(E1) ・本授業により、受講者が交通機関における事故の発生状況や国土交通省、交通事業者の取り組み、課題を理解し、これらをもとに事故に対する自らのリスクマネジメントを考え、実践することができるようになる。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 <p>③予習 (120分) 『国土交通白書』を使って、近年の交通機関関連の事故の発生状況を調べておく。</p> <p>④復習 (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・航空機や鉄道、船舶、自動車等の事故に対して自分自身備えていたこと、今後備えておくべきこと、心がけておくべきことを整理する。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
11	<p>①授業テーマ 感染症のリスクマネジメント</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在わが国で、死亡した国民の死因として最も多いのは悪性新生物(がん)によるものです。しかし過去に遡ってみると、かつて死因として最も多かったのは、肺炎や胃腸炎、結核などの感染症でした。 ・こうした感染症に対する国や自治体のリスクマネジメントとその課題について確認し、私たち自身が感染症に対して普段から取り組んでおくべきことを検討します。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 <p>③予習 (120分) 本授業により、受講者が感染症に対する国の取り組みと課題について理解し、これらをもとに感染症に対する自らのリスクマネジメントを考え、実践することができるようになる。(E1)</p> <p>④復習 (120分) 授業で天然痘やインフルエンザ、はしかといった感染症の事例に触れるので、これらの感染症の概要について参考書やネットで調べておく。</p> <p>④復習 (120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・自分が住んでいる自治体の新型インフルエンザ行動計画を読んでみる。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。
12	<p>①授業テーマ 環境問題のリスクマネジメント</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化のようなグローバルな地球環境問題に対する国や自治体のリスクマネジメントとその課題について確認し、私たち自身が地球環境問題に対して普段から取り組んでおくべきことを検討します。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者が環境問題に対する国や自治体の取り組みの現状と課題について理解し、これらをもとに環境問題に対する自らのリスクマネジメントを考え、実践することができるようになる。(E1) <p>③予習 (120分)</p>

	<p>事例として京都議定書に触れるため、京都議定書が結ばれた経緯と内容を調べておく。</p> <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・2015年11月30日から12月11日にかけて開催されたCOP21（気候変動枠組条約第21回締約国会議）の論点や結果について調べる。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。 <p>13</p> <p>①授業テーマ 犯罪・国際テロに対するリスクマネジメント</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITの技術革新やグローバル化によって新たに発生するようになった犯罪や国際テロに対して、国や警察が行っているリスクマネジメントと課題を確認し、私たち自身が犯罪やテロに対して普段から取り組んでおくべきことを検討します。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者が犯罪や国際テロの動向や国の取り組み・課題について理解し、これらをもとに犯罪や国際テロに対する自らのリスクマネジメントを考え、実践できるようになる。（E1） <p>③予習（120分）</p> <p>近年のわが国における犯罪の発生状況や国際テロの発生状況を調べる。</p> <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・わが国でかつて発生したテロについて調べる。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。 <p>14</p> <p>①授業テーマ リスクマネジメントにおける科学と専門性</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの過程で科学や専門性が果たしている役割と限界について検討します。 ・実務経験を踏まえ説明していきます。 ・本授業により、受講者がリスクマネジメントにおける科学と専門性の役割と限界について理解し、それらの視点から自らや社会における様々なリスクマネジメントの取り組みの課題を考えることができるようになる。（E1、I1） <p>③予習（120分）</p> <p>事例として2011年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故1の例に触れるので、当時の新聞記事やインターネットを使って概要を調べておく。</p> <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に書き留めたメモをノートに整理する。 ・授業で挙げられた以外のリスクマネジメントにおける科学技術をリストアップしてみる。 ・授業で挙げられた参考文献や参考資料を読む。 <p>15</p> <p>①授業テーマ まとめ：何を学んできたか、これからどう学ぶか？</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業により、受講者がこれまでの授業で学んできた点を整理し、これから理解をさらに深めていくべきポイントや参考資料を検討していきます。 ・リスクマネジメントについて今後も自らが自主的に学ぶことができるようになる。 ・小テストのフィードバックを行います。 ・期末レポートのフィードバックを行います。 <p>③予習（60分）</p> <p>これまでのノートと資料の内容を確認する。</p> <p>④復習（180分）</p> <p>これまでのノートと資料に目次や索引をつけ、後で見直しできるよう整理する。</p>
関連科目	危機管理概論Ⅰ（RMGT1301）、危機管理概論Ⅱ（RMGT1302）、リスク・コミュニケーション論（RMGT1304）、インテリジェンス論（RMGT1305）、生活安全と法（RMGT1401）、社会安全と法（RMGT1402）、憲法と人権（RMGT1311）、立憲主義と統治（RMGT1312）
教科書	特になし (適宜、レジュメや資料を配布する)
参考書・参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■奈良由美子、2017年『改訂版 生活リスクマネジメント—安全・安心を実現する主体として』（放送大学教育振興会）。 ■平川秀幸・奈良由美子、2018年『リスクコミュニケーションの現在—ポスト3.11のガバナンス—』（放送大学出版会）。

連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室、Zoom等に対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%、パブリックセキュリティ25%、グローバルセキュリティ25%、情報セキュリティ25%、 ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学80%：法学20%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.